

（右）の通りである。

羽場松内の状況

海防方面の羽場松内には米軍から貸与されたリバティ型質の船（七〇〇トン級）が用い
引揚舟は三五。〇五五〇。〇名定乗組正のりれ。また、船内には船機を完備されており、
は五枚板で一ツの船機はそれ以下二段に仕切り、床は板敷で大体一掃りたり四人の割に維
更の上甲板に、上甲板には前後部それぞれを二箇所、中甲板には船尾と船首、倉庫清掃所
であつて上甲板の甲板も亦五しく、同様に仕切りは必ずしも上甲板に出る状況であ
出入口は唯一箇所であるが、船内には必ずしも上甲板に出る状況であ
船内には必ずしも上甲板に出る状況であ
船内には必ずしも上甲板に出る状況であ

（左）の通りである。

（右）の通りである。

（左）の通りである。

五日か、つね、消毒消毒を実施せざるも、難事業の一つであつた。
最初は、この船にも使役者に対する消毒消毒の施設を確つておなかつた。ドラム缶に薬液を貯せしめ、
消毒する方法を精査し、検査官の目の前で作りて実施した。

排便はすべて前庭の如きドラム缶を用いた假設便所を使用中、その消毒は二、三分シリンダー水
を排便量と同量になるまで注加し、シリンダーと換えて、よく攪拌混和し、二十四時間放置後海中に投
棄したのであるが、排便の処置は防衛上最も重要且つ困難な作業であつた。ドラム缶一箇に押し一日
一、二回人宛の使用に供したので、一箇に押し實際は六、乃至八、五隻派船した。尚消毒用としてク
リールは大体一船一日十、二十回を要した。

保固者検査のための検査は、臨時検査班の最も重要な作業の一つであつた。被検査者は連日一万人を以
て、最も高き万人にも達した。当初は、緊急の準備の困難であつたので、保固検査を行つた。即ち一平の
時、保固用バナナ水試験管に四人宛の試料を培養した。保固船二隻にも達した時には一、二人一組にする
のに必要な至つた。しかし、保固検査ではコレラ菌陽性の時に保固者を決定する迄、その保固の検査
者と全部コレラ検査者として取扱ひ、これらも検査病院に隔離した。

この保固検査法は一時に大人数の試料が出来た利点があるが、その反面、その観察がある。即ち保固
者の決定が遅れること、又時として最後の検査に直、検査出来ず、保固者の決定不能の場合があるの
である。その他、コレラ、整疹チフス、予防注射、検査等は引揚地出港前に行きと否に拘はらず、
船に施行した。

コレラ検査、死者の検察には船上から狭い階段を背負いて取出し、荒天の際にはグビットを用ひて舟
から下り、船尾後極まで作業であつて、検査官以下船班班員の献身的な努力は誠に崇高なるものであ

一、大荒天に際しては作業中陸上との交通不能となり、コレも概内は謝り込められることも厭、だへに
断りのなき状態の下に勤務員は、自己を顧みる運を、防疫作業に正しとたので一同は向余で救助の概
こまじした。

①、防疫作業には律例と防疫所勤務員が第一等とみて扱ったのであるが、引揚者の大部は陸
部間出陣中敗戦の憂目に遭ひ此れを苦難の後、内地引揚を許されて帰還した員軍人として、長い
年月を過ごした束縛から開放されることの一途を前に於て、然も内地を目前に眺めてコレも悲者先生
のたのしみは簡高難者なれたので、引揚者の心中は、しこりに閉居り、さきからであつた。

一般に引揚隊には部隊、各向体の輸送指揮官（一）がおり、戦後統制もとれたので敗戦後は一般
見習からして充分なる統制は種々困難を伴つてゐる、防疫所施設に當り引揚者の協力を期待するこ
とは、この隊に於ても初めは、困難な状態であつた。

前述の状況で防疫作業は日ごと、加重され、人員の老選整備を必要とし、各方面に派遣した結果
運局、厚生省、神奈川縣警察等、各々別の管轄となり、各々管轄の医師、士、日赤、人文等が防疫所の果
實を携て運送作業を強化して、既わ、コレも第一、行して甲一名、助手四名、看護婦三名を配置し
別に運送作業を編成更に防疫（一）隊は防疫所施設に当り各班を編成し得て防疫の部隊は漸く
前編であつた。

(別表二)
六、八、一

検査票配員表

昭和二十六年

浦賀引揚換護局

職別	勤務					應接					臨時 総用者		
	小計	医師	技師	検査員	配員	小計	医師	助手	学生	その他			
△ 3	209(1)	24(1)	6(1)	11	18	39	110	37	6	22	10	29	25
臨時検査員	107	45	6			39	62	37	1	24			
臨時検査員	9	2		1	1	7					人夫 7		
検査員	15	2			2	13			1	2		8	
検査員	63(1)	17(1)	1(1)	6	11	2				4		21	21
検査員	15	8		2	4	5					3		4

A. 検査票

検査票は、検査員が検査した結果を記載したものである。検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。

B. 検査票の記入

検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。

C. 検査票の記入

検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。

D. 検査票の記入

検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。

E. 検査票の記入

検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。

F. 検査票の記入

検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。

G. 検査票の記入

検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。検査票の記入は、検査員が検査した結果を記載したものである。

コレラ患者発生並に同收容状況

V七五号は東引揚後松岡にコレラ患者発生事情があつた。浦賀に入港後発生した引揚船もあり、又入港當初はなかつたが仲前中に発生を見た引揚船もあつた。とくに保苗者の摘発は防疫の思地より重要を置き、保苗者を早期に摘発したのでコレラ蔓延の防止となし得たと思はれる例も多数あつた。

前述したやうに患者並に保苗者検査に保固検査の実施を急務なくこれ、集同検査場性者にはコレラ容疑者として取扱つたため、各船共に容疑者として取扱られたものが非常な多数に達した。又コレラ患者以外に多数の普通患者があり、狭い船内に健康者と共に「下し詰」の状況で難産し之に加へて給養治療の不充分なため、おび息化するもの多く、中等患者も陸上に收容加療を要した例も幾多あり、摘発した患者及保苗者も連日増し、致であつた。

一、コレラ患者は、V七五号に於ては四月五日夕刻入港六日午後コレラ船と決定、七日から患者を收容した。即ちコレラ患者四六名、容疑者七名、八日コレラ患者三名、容疑者一四九名と以下船ごと逐月收容し、引揚者共計四〇八名中入港前病者七名は一〇七九名に達し、附コレラ患者一五名、保苗者四〇名コレラによる死者三名、容疑者一名、普通患者と合算し、八八名とあつた。又コレラ患者は、コレラ容疑者は陸上收容不能に陥つた程であつた。

コレラ患者の発生は、四月七日初め、浦賀と園上久里浜病院に收容し、尔後連日同病室に收容し、引揚者共計四〇八名中入港前病者七名は一〇七九名に達し、附コレラ患者一五名、保苗者四〇名コレラによる死者三名、容疑者一名、普通患者と合算し、八八名とあつた。又コレラ患者は、コレラ容疑者は陸上收容不能に陥つた程であつた。

日	午前	午後	合計	期	不期
1	1		1		1
2	3	1	4		2
3	4	3	7		1
4	9	3	12		4
5	1	1	2		
6	7		7		1
7	6	6	12		
8	3		3		2
9	16	3	19	1	11
10	22	15	37		6
11	4	4	8		
12	25	11	36		5
13	44	29	73	1	1
14	2	2	4		
15	9	4	13		5
16	15	12	27	1	2
17	3		3	1	2
18	8	6	14		2
19	2	1	3		1
5月30日	19	5	24	3	11
4	3		3	1	9
5	1		1	1	2
6	4	1	5	1	1
7	2		2	1	1
8	2		2	1	1
9	5		5	3	2
10	1		1		1
11	3		3	1	2
12	1	1	2		
13	2		2		2

本邦内に於ける、した。国立又里洋病院の收容員数は最高二、七七。名に達した。五月三日には、
 五月二日よりコレラ患者の收容に於てられた。又四月三十日病院船出。二名の患者より同船され、
 船内を回引物船内のコレラ患者発生状況を結果すれば訂正統計表に示した通り、然し患者
 数は七八九名、内コレラ診定者七九名、コレラ菌保有者一八九名であつた。コレラ患者の死亡
 数は三八八名、内コレラ診定者四一三名と示した。この内一四一名は船内で死亡したものである。
 船別に観れば最も多発したのは、リパット型八二号で乗員四、六五名中コレラ患者二九名、内
 死亡者一四名を出し死亡率五五、四九と示した。以下多発した船舶を
 列挙すれば、V七五号一三〇名、V八四号九九名、V六九号九二名、V八七号七八名、V八四号四〇名
 V七一号三八名、V八一号三三名である。
 船内にて死亡したコレラ患者の処理は、便桶中の衛生部員によつて行はれた。箱の調達は後援
 費で担当したが早急に間に合はず、紙又は毛布で包まれた。従つて當初の屍体は船内に於ても暫く
 置くことが出来ず、恐ろしい処理は使つた粗末であつた。しかもその死因等の作製もなく、時には
 大衆の死、急なるため患者が直ちに船内を行つて死因を作製する状況であつて、其の事
 務的処理に難路をきたすことも多く、特にコレラ船より交通艇に移乗させて波止場に輸送の途次舟
 内にて死亡せる者、又は揚陸後病院収容に至らざるまでに死亡せるもの等は同乗の軽症患者に同分
 する。今までの屍体の揚陸状況を記せば次表(別表三)の通りである。

日	コレラ	その他	その他 伝染病	平・病
21	17	57	1	23
		2		
		6		
		7		
		11		1
23	3	1		1
24	8	1	7	
25	9	2	1	
26	15	3	12	
27	1	1		
28	5	3		1
29	1		1	
30	2		1	1
5月1日	7	1	2	1
2	11		1	3
3	1		0	1
4	6		5	1
5	3		2	1
6	3	2	1	
7	3	3		
9	1			1
12	1			1
16	4	1		3
19	2			2
23	2		1	1
27	1			1
31	1			1

上の如く、松野正吉君はコレラ最多数伴前中の四月中、下旬に於て最も多く、四月二十二日の最盛期十
 四日を示した。そのうち四十二日コレラによる死者であつた。
 のく、如く状況であつて、この四月中、下旬に於ける揚陸屍体と、更らに検査病院に於て死とせらる
 屍体と同一場所の屍体室に收容した關係上、その処理は又格別の困難があつた。
 松野新病院にて死亡したその日次表は、別表四の通りである。

(別表五) 月別屍体火葬数

月	日	火葬数	月	日	火葬数
総計		531	5	1	
4	7	8		2	
	8	3		3	12
	9	11		4	10
	10	10		5	3
	12	1		6	4
	13	1		7	7
	14	6		8	2
	15	3		9	3
	16	16		11	5
	19	24		12	1
	20	10		14	1
	21	32		15	3
	22	2		16	4
	23	46		19	2
	24	8		23	2
	25	11		27	1
	26	24		31	3
	27	16	6	1	1
	28	8		3	1
	29	9		5	1
	30	14		13	1

以上を総合すると死体の最高処理数は四月二十三日の四十六体に達し屍体処理のなかつた日は稀であつた。
斯くの如くして後日その屍体の氏名すらわからぬものもあつたが、関係各部と協力してこれら屍体に對する処理も順次快調に運び、その暇と申ふことが出来たのである。

このコレラ流行の解除の状況
コレラ流行の停泊解除は水軍の指令により最後の患者又は罹患者発生後十四日経過しその間二回の検査成績陰性なることを確認して後許可された。従つてコレラ流行の停泊期間は別表六(別表六)の如く四月一七日晨辰四八日に達した。

(1) 陸上に於ける検疫
伝染病検査

検査官が検査に就ては既に記載した通りである。コレラ細菌消毒解除後、検査者が場陸に降りては被服
は消毒済に依り厳重な検査を受けた。

検査官は場陸場に於て消毒済の荷役を受け、何物消毒所には消毒される。此処に於ては荷物のD D T
消毒と兵に脱脂剤の検査を受ける。次に消毒済の場所へ行く或れなく検疫個人的に細菌学的検査
を受ける。次に消毒済の場所へ行く或れなく検疫個人的に細菌学的検査を受ける。

検査官は消毒済の場所へ行く或れなく検疫個人的に細菌学的検査を受ける。次に消毒済の場所へ行く
或れなく検疫個人的に細菌学的検査を受ける。次に消毒済の場所へ行く或れなく検疫個人的に細菌学的検査
を受ける。

検査官は消毒済の場所へ行く或れなく検疫個人的に細菌学的検査を受ける。次に消毒済の場所へ行く
或れなく検疫個人的に細菌学的検査を受ける。次に消毒済の場所へ行く或れなく検疫個人的に細菌学的検査
を受ける。

検査官は消毒済の場所へ行く或れなく検疫個人的に細菌学的検査を受ける。次に消毒済の場所へ行く
或れなく検疫個人的に細菌学的検査を受ける。次に消毒済の場所へ行く或れなく検疫個人的に細菌学的検査
を受ける。

この航行に至りしつと揚子江に上りしむる... ことが出来た。
 此の向新群島からのニモ(子)を船者の大部分は北群島から来た(子)が多に入港すことと見られた。
 同航を命ぜられ、六月二十二日高港入港検査中コレラ患者一人が発生した。
 (3)入港検査表並びに患者発生表

コレラ指定の上海東方入港船検査 昭和二十一年六月二十五日 高港検査局

船名	出帆地	入港月日	検査月日	引揚人員		コレラ患者	備考
				乗客	船員		
計	65隻	131.242名		126.322	1.325	7(2)	(1)ハ元若クホ入
随	岐	5月27日	6月1日	200	200	0	
ハ	パンコツク			3573	3533	0	
ハ	パンコツク			583	583	0	
早	崎	5月28日	6月2日	1.215	1.215	0	
早	崎			1.215	1.215	0	
神	風	6月1日		1.42	1.42	0	

船名	出帆地	入港月日	検査月日	乗客	船員	コレラ患者	備考
夏	月	パンコツク	6月1日	6月5日	1.302	0	
ハ	パンコツク			3504	3504	0	
永	録	丸	カ	イ	コ	ツ	ク
ハ	パンコツク			2.010	2.010	0	
ハ	パンコツク			3.527	3.527	0	
ハ	パンコツク			505	505	0	
江	江			359	359	0	
江	江			11	11	0	
ハ	パンコツク			3.300	3.300	0	
ハ	パンコツク			3.537	3.537	0	
ハ	パンコツク			505	505	0	
ハ	パンコツク			1.210	1.210	0	